

記者メモ

○：大阪市教育委員会会議(5日)で2015年度から使用する中学校の社会科学教科書について、侵略戦争を美化し

改憲に誘導す

る内容が大きな批判を呼んでいる育鵬社

大阪市教科書採択議論の異常

の歴史・公民教科書が採択されたことに、教育関係者や保護者から怒りの声が上がっています。

会議は大阪市西区の市立中央図書館で開かれましたが直接傍聴は不可。傍聴希望者は

港区の大阪教育センターの講堂で中継を見ましたが、音声

が非常に悪く、音が途切れたり、委員によっては発言内容がまともに聞き取れないこともあり

ました。○：育鵬社の歴史教科書につ

いました。

大森不二雄教育委員長は「個人的意見」と断りつつ、資料も使って1時間近くにわたって持論を展開。「自由や民主主義」といった第2次世界大戦と冷戦を経た「普遍的

家の歩みにはリアリズムが必要」と語り、資料では「日本を戦争する国にするな」などの言説で、平和国家日本の安全と繁栄を守れるのか」と断じています。

育鵬社教科書への批判点に

対してどの委員からもまともな意見は出ないまま。一

いて、「女性にスポットを当てており、グラビアも多い」などと評価したある委員は

「何十年かぶりに歴史教科書を見た」と告白。これで教科書について専門的な評価が下

せるのかと、あ然としてしま

る価値こそ、生徒たちに伝える社会観・歴史観の構成要素などと発言しました。

○：「反戦・反米は時代遅れ」とも述べた大森氏。「普遍的価値が通用しない国(中国など)がアジアでは平和国です。(す)